
 < 書 評 >

「頭部外傷治療の実際 ——救急処置からリハビリテーションまで——」

九州大学講師 西 村 謙 一 著

倉 本 進 賢

頭部外傷に関する成書や論文は非常に多いが、急性期の処置、治療からリハビリテーションそして障害認定と社会復帰まで1人の患者の経過を追うように具体的に述べられた本はない。特に著者は無駄な理屈は抜きにして具体的な臨床症状を直視し、その時々における基本的な治療の原則をまず明確に述べ、そして実際のベッドサイドでの処置を詳細に具体的に記述している。本書全文を通じて簡潔、明快な筆の運びは読者をしてその1行1句にうなずかせるものがある。

本書は大学の研究室ではなく、社会の第一線病院の頭部外傷患者のベッドサイドで書かれたものである。

それだから緊急の場合の処置や細かい注意、器具の取り扱いにいたるまで親切に書かれている。このちょっとした処置の1つ1つが、実際の頭部外傷患者の治療には非常に重要なものであり、一言にしていえば治療実践の書である。

いま医療はますます複雑になり、頭部外傷に関しても救急処置からリハビリテーションまでの一貫した治療の必要性は多くの人々が頭の中では考えていることである。しかしながら頭部外傷を取り扱っている多くの医師は急性期の治療に追われて、リハビリテーションを理解するに至っていないのが現状のように思う。著者は頭部外傷患者のリハビリテ-

ーションを実際に経験され、そして頭部外傷の治療にリハビリテーションを積極的にとり入れ、関係者のたがいの協力が必要なことを説かれた。この点でも本書の意義は大きい。

最後に本書に詳しく述べられている意識障害患者の治療、ベッドサイドの細かい注意は脳神経外科治療の基本であり、頭部外傷を多く診療される一般外科の医師はもちろん、脳神経外科医を志す人々にも必読の書としておすすめしたい。

(久留米大学教授)

B5・頁230・図69・写真167

¥5,000 ㊦170